

No. 103  
**公民館だより**  
 平成9年12月  
 宮津市字由良  
 由良の里センター内  
 由良地区公民館

# 由良岳・森ヶ鼻道によせて

公民館長 山下 清 一

今年は例年になく雨の少ない秋となり、白菜等冬野菜の出来が今一つのようなです。

由良岳の紅葉も、今年はどうかなと心配していましたが、立冬を境に急に色づき始め、六、八合目付近の横に長い濃緑の杉林を挟んで頂上から山裾まで、黄・紅抜き混ぜ朝日に映える全山紅葉の美しさは見事で、由良岳が私達に見せた初めての紅葉美ではないでしょうか。正面から眺める山容はいかにもゆつたりとした感じで、着飾った紅葉の秋に満足しながら、来るべき

厳冬を待つているようです。

川向こうの蒲江から遠望する由良岳、麓から緩やかなスロープを形成しながら力を溜め、五、六合目から勢いよく頂上に向かって伸び上がる力強い姿は、いつ眺めても雄々しく、私の気に入った景色の一つです。

近年、林産業の不振、生活様式の変化進展により、山林が忘れられた存在になりつつあります。以前は、植林や手入れ、薪の採取、山菜、茸とり、節句の柏や、いばらの葉とり等、子供の頃から親しみ遊んだ山も今日

では人影もなく、静かに登る焚火の煙など今は昔の景色です。山道の荒廃が深刻です。出水による土砂の流出や陥没のため、傷跡は年々深まりつつあります。

渓谷・溪流の荒廃も少々心配になります。通年絶えることなく、生活用水や農業用水として麓の里を潤している渓谷、溪流の荒廃にも、適切な気配りが必要になって参りました。

昨今、地球環境の保全、取り分け「オゾン層」の破壊防止、地球温暖化防止と対策が大きく叫ばれています。一説によると、今後百年間で地球の平均温度が二度も上がり、両極の水の融解により海水位が一メートルも上昇し、自然環境や社会が対応出来ない危険性が指摘されています。十二月一日から京都で開催される「COP3」(地球温暖化防止京都会議)の成功を切に祈りたいと思います。

未だ私達は、実感として充分受け止め切れていませんが、地

球規模の取り組みは当然のこと、一人ひとりが従来の慣習を破棄し、今何をすべきか? 更に信頼の輪を拡げながら、善いと言われることは小さなことでも侮らず、大きなことでも恐れず、一つ一つ真剣に取り組むことが急務ではないか? と。

そんなことを催促思い思い静かな森ヶ鼻の夜道を淡い月明かりを頼りに、せかせかと家路を急いでいました。

由良岳の真上には上弦の月が青白く冷たく見おろし、東方横山の夜空に高く、オリオンの三連星が冷たく瞬いていました。

秋深しオリオン高く夜更けぬ

清海



# 行事報告

主事 酒田 治

## ◎八月十四日

四部対抗球技大会  
同日夜、盆踊り大会  
(雨で中止)

## ◎九月七日

由良地区大運動会が雨の為中止になったことは、誠に残念で致し方ありません。

球技大会では、大会で友との再会を楽しみに帰省された方も居られたと思います。又、来年よろしくお願い致します。

運動会では開会に向け、公民館は元より、各自治会におかれは、選手の選考等々。当日に万全を期しておられた関係者の皆様、申し訳ありませんでした。又、次回よろしく協力お願い致します。

## ◎文化祭

十一月三日

秋!! どこまで続く青空。

今回は屋外から屋内に文化祭の様子を簡記したいと思います。

赤白の幕の中に、デーンと横綱の手入れの行き届いた盆栽があぐらをかいている中、今では貴重な、赤白黄の見事な菊の鉢植えを観賞しながら、履物が外まではみ出して大盛況の入り口を左へ、婦人会のバザー会場。

ここは早朝より少しでも安く、良い掘り出し物がというお客様で訪れたときは品物もほとんど売り切れ、お客様もまばらでした。

会場入口の人、人、人をかき分けて、同好会が開店の喫茶で一息入れ、婦人会のうどん、ぜんざい会場。「役員さんご苦労

様」と心で声をかけ、二階の文化祭会場に向かう。階段を上すると正面に能面が優しく微笑みを投げかけ迎えてくれる。

お茶室では先生の指導よろしく、可愛いお弟子さんの立てて頂いたお茶を味わい、いよいよメインの会場へ。入口から右回りで観賞していこう。

ご無理をお願いして出品していただいた西野真弓さんの繊細な油絵。生け花教室より出品された生け花が色鮮やかに会場をぐるりと囲むなか、見事な写真、ちぎり絵、習字。小・中学生の習字、絵、工作、しき紙。

いろいろと批評をしながら見ているお父さん、お母さん。生け花の続きに今年初出品をしていただいた小室さん、榎田さんの陶芸品は珍しく、お客様も足を止めて見入っていました。

最後は昨年に続き出品をお願いした由良出身の若森久子さんの油絵等、大切な作品を出品し

ていただき文化祭を盛り上げてくださった方々、文化祭開催のためご協力下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。



# 文化祭

## 一 婦人会員

十一月三日恒例の文化祭が小春日和の中、盛大に行われました。

婦人会の催し物(うどん・ぜんざい・余剰野菜の販売)に参加するのは二回目です。

本年は準備、仕入れから携わったせいでどうか、自分の店のオープンを待つ心境で、人の出足、品物り売れ行き、天気予報等を気にしながら、当日を迎えました。

私の持ち場は外での販売で、前日から、ああして、こうしてと段取りを考えておりましたが、海産物の荷物解き、余剰野菜を並べる間もなく、波のように押し寄せるお客さんの手が品物に伸び「これいくらですか」「あれを下さい」と開店の準備どころではなく、もうほとんどパニック

状態の中、嵐のようなお客さんとの対応で、開店早々店は活気づきました。

本年は、今流行のフリーマーケット(蚤の市)擬も行いました。数は少なかったのですが子供服から雑貨に至るまで、露店のおばちゃんに早変わりし、巧みな話術で(?)と粘り腰で売れた時の快感を味わいました。

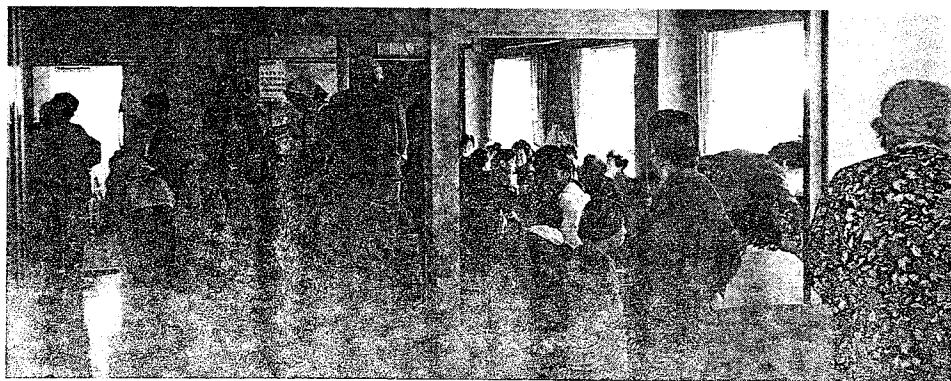
場所の問題などあるかと思いましたが、遊び心で楽しいお店、フリーマーケットの開店は家庭の不用品のリサイクル(プラス)する物によっては、中高生の若い人達も文化祭に導くことになるかもわかりません。

ところで、ぜんざいの餅、昨年より多少大きくなっていたのに気がついてもらえたでしょうか。値段の割に餅が小さくな

いか、少しでも大きな餅を食べてもらいたいという思いから、役員の有志により餅つきをしました。満足していただけたでしょうか。

食べ終わって出て来られた方の中で「おいしかったで」と声をかけて帰られるのを見ていますと、うどん、ぜんざいの方もごった返している中、役員一人ひとりが誠意を込めて一生懸命やっているのだなあと感じられました。

イライラさせたり、不愉快な思いをさせたこともあったとは思いますが、盛況のうち、無事に文化祭が終了出来ましたことは、出向いていただきました皆さんのご協力の賜と感謝致しております。有難うございました。



# エコ・クッキング

中西夏江

十一月二十日付の回覧板に「エコライフ「百万人の誓いに参加しよう」」という呼びかけの一枚があった。

昨今頼に呼ばれているところの所謂、やさしい環境づくりと地球温暖化防止のための、各人が日常生活で実践できる行動を誓おう！ というものである。

「わたしも誓います！」の二項目の中で、  
○食材をムダなく使い、省エネを心掛けて調理するエコ・クッキングを行う。

を読んで、エコマークを思い浮かべながら、ちょっとこだわってみたくなった。

最近の新聞は、エコロジイという分野が百年以上も前に、アメリカの女性科学者によって確立され、合理的・科学的でエコ

ロジイを意識した生活をしよう」と訴えた——と報じている。

「エコロジイ」は①生態学。

②自然環境保護運動。人間も生態系の一員であるとの視点から、人間生活と自然との調和・共存をめざす考え方。(大辞泉より)

「エコロジカルな生活」「エコグッズ(商品)」、「エコ住宅」「エコ学校」「エコリレー」など多々。遂には環境庁の呼びかけで「全国一斉アルコロジイ大会」が十一月八日初めて催され、五万人が参加。アルコロジイとは「歩く」と「エコロジイ(環境)」をかけた合わせた造語で、安易に車を使わず歩くことを心掛ける運動だという。

れる。二十世紀の人類の行為を振り返り、温暖化を防止するためにエネルギー多消費型の社会構造の見直しを真剣に考える時期だと言われ、期間中には、国内、海外のNGOのメンバーが京都に集まり、各国の政府代表団への働きかけや街頭キャンペーンを繰り広げる。まさに「エコ・ジャパン'97」の中に私達も生活をしていることになる。(CO<sub>2</sub>削減の日本案は低すぎるといわれているが——)

私達一人ひとりには小さな力しかないけれども、積み重ねていくことで社会全体の大きな力になることを信じて、毎日の生活の中でせめて「エコ・クッキング」を実践したい。

といっても、今が「エコ・クッキング」の事始めなのではなく、すでに私達はその実践をして現在に至っている。半世紀前に遡る戦中・戦後の食生活の中にあって、生活の知恵を出し合い、  
●食材は無駄なくフルに活用し、

調理くずは極力抑えた。

●煮汁をかけながら煮たり、鍋物などは残りのだし汁で雑炊をつくった。

●食器や鍋の汚れは、紙で拭き取って熱湯をかけた後、水洗いした。(ためすぎ)

●食用油は、揚げかすを取り除いて、適当の差し油をして使った。

など、現代の「エコ・クッキング」が目標にあげる環境保全上の○生ごみ減量

○水質保全  
この二点に大方近いものだったように思う。

大方というのは、私の記憶する昭和初期から敗戦後十余年、物資も不足がち、勿論、水質測定も生活雑排水の対策もなく、生ごみの処理等も、時に不衛生な面もあった。素朴で、粗末な生活環境の中での「エコ・クッキング」だったからである。ぎりぎりの食材ゆえに、時には身も心も緊張し、それでも家族を

愛する食事作りの中で、ささやかに切ない程の「エコ・クッキング」が、今のように明るくはない台所で行われていたということがある。

豊かさが生み出した経済優先の現代社会の中で、私達は身の回りの生活環境（水、空気、食べ物）に鈍感になってしまったといわれ、温暖化の影響は、今を生きる私達より、子供や孫の世代になるほど深刻だといわれている。

「地球への思いやりは家庭から」と銘打たれた「エコ・クッキング実習レシピ」の中の一例に『残り野菜のポタージュ』が紹介されている。このレシピは、キャベツの芯、人参や大根の皮、ブロッコリーの茎を切って炒め、煮込んだ後、ミキサーにかけ、器に注ぎ、クルトンなどを浮かせる。（キャベツやブロッコリーは茎の方がビタミンCや食物繊維が多い）  
究極の「エコ・クッキング」

として、寄せ鍋の残りのだし汁で雑炊を作ることが、最後まで食べつくしてしまうというので取り上げられている。皿にレタスを敷くことも皿を汚すことが少なくすむ等、懇切丁寧な解説もある。

新聞紙上の実践例には、冷蔵庫の開閉を少なくする。また、食器洗いは塩で、或いはみかんの皮で皿を拭けば、水洗いだけでも油がとれる等のアイデアもある。

生活様式の多様な変化と、有り余る食材にすっかり慣れてしまったこの頃であるが、「環境にやさしい暮らしのアイデア」等エコ・クッキングに関する資料や情報も数多く出されている。交流しながら気楽に実行したい。そしていつも、自然の恩恵に感謝しつつ、エコロジーの心を大切に生きていきたい、と思う。  
※資料を提供して下さった市環境衛生課の小西氏に紙面を借りてお礼を申し上げます。

# 宮津市婦人バレーボール大会 ソフトバレーに優勝して

川崎 智子

十一月九日、宮津市婦人バレーボール大会が、市民体育館で行われました。

私達は、ソフトバレーです。ルールは五人制です。いつもの練習は、その日集まった人数により、三人対四人であったり、四人対五人だったので、急ぎ五人制での練習を始めました。

皮バレーの試合に出られる玉垣さんに指導をお願いし、本番に向けました。「優勝目指してガンバロー」と気合と、チームワークだけは十分です。

いよいよ当日、どのチームも強そうに見えます。まずA、B、Cコートで九チームが決勝に向けて試合開始です。さすがに、いつもと違い皆真剣です。

決勝に残ったのは、由良、栗田、宮津の三チームでした。ま

ずは宮津チームとです。

昨年このチームに負けているので今年こそは、と気合を入れて、一セット自由良が取り、「よし勝てる」と思い力が入り過ぎたのか、残り二セット取られ今年も負けてしまいました。結果は三チームとも、一勝

敗でしたがセット数で由良が優勝しました。「ヤッター」と応援して下さった役員さんも緒に喜んで下さり、嬉しさ倍でした。

六十代の方のおられる宮津チームを目標に、楽しい仲間とこれからも続けて行けたらと思います。

最後になりましたが、婦人会の役員さん方には、大変お世話になりました。

# 挨拶と思いやり

四方 寿朗

現在もいろいろな処で挨拶運動が行われている。広辞苑を引くと挨拶とは「人と出合った時にとりかわす儀礼的な言葉、行動、応対」とある。これが運動として奨励されるのは、挨拶が社会生活を円滑に行うのに必要と考えられているからだろう。

戦前には礼儀というものを家庭でも社会でも厳しくしつけた。私は丹波の祖父母に教えられた。例えば道で出合った人には必ず挨拶をする。畑で仕事をしている人にも声をかける。何と云うのかと尋ねると「お早うございます」「今日は」仕事をしている人には「ご苦労さんです」など。「今日は」の後には「あなたのご機嫌はいかがですか」という言葉が略されている。儀礼的な言葉だがお互いに、相手に

たいする思いやり、いたわりの気持ちを表すのが挨拶本来の姿である。だからこそこの運動で地域の連帯感も育つのだ。

以前由良でも子どもが大きな声で挨拶をしてくれる時代があった。ところがその子が中学生になると途端に知らぬ顔になる。中学校の廃品回収の朝、私が新聞の束を持って外へ出た処へ、中学生が二人取りに来た。黙って持ち帰ろうとするので、思わず挨拶を催促してしまつた。中学生になって照れるのは分かるが、小学生時代のあの元気な挨拶は一体どこへ行ったのか。ではこどもに他人への思いやりの心を育てるにはどうすればよいか。先ず大人がこどもに信頼されること。それには大人が嘘をつかない。約束を破らない。

そして親自身が思いやりのある人間になること。こどもは親の言うことは聞かないが、することはまねる。又親の行為が本物かどうか、鋭く見分ける。こどもの前で年寄りをいじめておいて、こどもに優しい人間になってくれと願っても無理。親が老人になった時必ず我が子にいいめられる。まさに自業自得、因果応報である。

最近ある新聞で驚くべき記事を見た。ある中学生が学校のボランティア活動で老人ホームを訪れた。一人の老人と仲良くなり、別れ際に「困つた事があれば電話を下さい」と言つた。後日その老人が電話をした処、母親が出て「うちの子は内申書の点数をよくするために老人ホームへ行った。今は受験勉強の一番大切な時なので、今後は一切電話をお断りします」と言つたという。

悲しい世の中になつたものだ。母親は仕方がないとしても、せ

めて中学生は、点数かせぎだけのボランティアではなかつたと信じていた。事実はどうあろうと、老人の気持ちを考へてもう少し何とか違つた対応があつてもよいとおもうのだが。他人を蹴落とすことにしのぎを削る受験戦争に優しさなど求める方が無理かもしれない。これからの日本の福祉行政を司る若者がこのような競争を勝ち抜いて来た人々だとしたら恐ろしい。医師や学校の先生も例外ではない。最近いじめ、校内暴力、果ては殺人まで。こどもの問題行動は益々エスカレートして行く。

二十一世紀は、そもそも地球の将来さえ危ぶまれている。よく言われる事だが、我々は現在の便利な生活を得た反面どれ程多くの、人間が生きて行く上で大切なものを失つたことだろう。その最たるものの一つが他人に対する思いやり、優しい心ではないだろうか。

# 川柳

山下節子

七五三僕が主役と次男坊  
とらのこをどこへあづけてよいのやら

山田寿美

遠い恋千羽の鶴に幸祈る  
記念の日過ぎ行く年の節目とす

藤本喜代子

出迎えの母は小さく駆で待つ  
爆音に絆も遠く雲の中

坂本妙子

ラッシュの中に孤独の風が吹き荒れる  
方程式解けて夫の愛を知る

# サークル紹介

## 歌謡サークル

宮津市文化団体協議会

歌研生涯学習友の会所属

名称 『安寿歌謡友の会』

会員数 十一名

学習日 毎月第二・第四木曜日

午後七時三十分～九時

会場 由良の里センター

内容 歌謡曲の基礎理論と実

践技法

私達は、音楽を愛し歌を愛し

そして日本の歌謡曲の理論の学

習と併せて、高齢化社会の生活

環境の中で、新しいライフスタ

イルを創造し、様々な人々との

出会いとふれあいを通じて互い

の融和をはかりつつ、ゆとりあ

る心と生きがいが見いだせるよ

う、生涯学習の活動を展開して

いるサークルでございます。各

地の志を同じくするサークル仲

間の集合体であります『歌研生

涯学習友の会』を上部組織とし、

宮津市文化団体協議会に所属、

市民文化祭、夏期教室、また、

ふれあい歌謡列車によるミニ旅

行と様々な活動を展開しており

ます。皆様も是非一度体験して

みませんか。

顧問 島崎 嗣郎

サウンドスタジオ島

☎ 二二一三六九六

☎ 二二一三六七四

お問い合わせ・入会希望

ご連絡先 山本 笑子

☎ 二六〇五八六

# バレーボールクラブ

# ソフトバレーボール

# 第二十三回宮津市文化芸能祭に初参加して

## 神心流詩吟同好会由良教場

バレーボールが好きの方、近頃、運動不足が気になり出した方、経験がないからと思っておられる方、体育館シューズを持って、小学校体育館に来て下さい。

練習日 毎週月曜日

場所 由良小学校体育館

時間 夜七時五十分頃より

練習は、賑やかに楽しく、好評です。珍プレーの連発です。

試合の前は少しそれに向けての練習をしますが、普段はワイワイ、ゲラゲラと楽しくプレーをしています。

試合後は、おしゃべりに花が咲く、楽しいティータイムが待っています。

十一月の婦人ソフトバレーボール大会では、平成七年度優勝、平成八年度三位、平成九年度優勝と、すばらしい成績を収めています。

練習日 第一・第三土曜日

第二・第四木曜日

時間 夜七時半～九時

場所 由良小学校体育館

尚、練習日を変更する場合がありますので、お問い合わせ下さい。お待ちしております。

現在、四十歳～七十八歳までの会員十名ほどで楽しく汗を流しています。男性の方もお気軽に遊びに来て下さい。

濱野 純子

間 編 幾久代

松林 きみ代

山田 常治

☎二六〇〇八五六

☎二六〇一四八八

☎二六〇一六八

☎二六〇一六八

去る十一月二日、市民文化芸能祭に初参加させていただきました。かねてから練習の成果を大きな舞台で発表してみようと、同志が意志を固め練習に取り組みました。日常多忙な生活の日々の中で、全員揃った稽古もままならず日々が過ぎ、ひとつの組織の統一練習がいかに大変であるかも学びました。

いよいよ前日の宮津会館を舞台に最終リハーサルとなりました。夜のリハーサルで、皆様も仕事の疲れもあって、迫力に欠け不安な結果でした。当日はどうなることかと危惧を抱きながら、当日出番前に、最後のリハーサルを持って本番に備えようと全員が誓い、気迫溢れる充実した稽古上げでした。

その流れのまま出番を迎えました。各自が舞台衣装を身に着けて、芸能部門の幕開けです。ナレーターを交え、内容テーマは吟を主体に扇舞に合わせ、「日本の四季を詠う」と題して、春夏秋冬を書道を変えて構成致しました。舞台の演出にも趣向を凝らし、いよいよ出陣の時がやって来ました。司会者より「七番、詩吟扇舞の発表です」のコールに続いて「神心流詩吟由良同好会の皆さんです」のアナウンスで幕が開き、そうなれば演ずる役者同士はまな板の鯉です。日頃の努力の成果を発揮するだけです。演技の終了と同時に観客席より盛大な拍手を受けることができ、また、「よかつたよ」と激励の声もいただき、次回に夢を馳せ、有意義な機会でした。新入会員を待っています。



## 由良少年野球クラブ

代表監督 岸 田 剛

少年野球クラブは昭和五十四年に、由良小育友会役員有志の皆様が計らいで、亡き大森寅一監督の指導協力、保護者会及び地区の皆様のご援助により、宮津地区大会優勝、京都大会出場等、輝かしい成績を挙げてきました(過去の部員、計一〇八人)。

しかし、七年度は、部員数の減少で、休部としましたが、八年度より再出発し、現在部員二名(六、二年生)で練習等に励んでいます。七、八年度は、六年生が一人であり、部員の大半が低学年であったため、公式戦の参加はできませんでした。来年度はチーム編成が整い、技術も向上することにより、公式戦の参加に向け、練習等に取組んで参ります。

由良地区の皆様方には、これ

までも多大なご支援、ご協力を賜りましたが、新生チームにも変わらぬご支援、ご指導をお願い致します。

## 年末防犯について

森 田 浩 志

早いもので、あの重油流出事故から一年が経とうとしています。この一年、相次ぐ凶悪犯罪や事故に、不安な日々を過ごされたことと思います。地域の皆さんには、数々の警察業務にご協力頂き感謝しています。

この年末も、景気低迷の影響によるものか、各地で強盗事件が多発し、さらに警戒活動を強化しています。皆さんにおかれましても、一人ひとりが防犯意識を高め、明るい新年を迎えて頂きたいと思えます。

### ◎窃盗被害の傾向と対策

窃盗といってもいろいろな手

◎被害防止のポイント  
では、どういう家屋や人が狙われやすいのか。

家屋の場合、植え込みやブロック塀などで隣近所から容易に窺うことのできないものというところになります。ほとんどの家はこれに当てはまります。防犯システムが施されていたり、地理的に困難な条件である場合以外、狙いの対象から外すことは難しいでしょう。ここでは、狙われても簡単に侵入できない工夫をすることです。

口があります。空き巣など他人の家屋に侵入して行うもの、すり・ひったくりなど屋外で発生するものなど様々です。これらの被害は、犯人の用意周到な被害者選びから始まります。捕まえる危険性を少しでも排除するため、必然的に狙いやすい対象に照準を合わせるのです。  
幾度となく被害に遭ったという人もいれば、一度もないという人もいます。これは、狙いやすいか、狙いにくいかの差にあるのです。被害防止の第一は、狙いにくい、隙のない状況を作ることです。

由良での侵入盗の特徴は、ほとんどが無施錠の状態での被害であるということです。犯人が侵入して物色して出て来るまで、長くて五分くらいです。カギをかけずに畑に行っている十分くらいに間に被害にあったケースがあります。ですから外出時は、五分、十分であっても必ずカギをかけて下さい。また、留守がちな家庭は、玄関だけでなく、裏口のドアや窓にも注意を

払い、二重ロックの設備を施しておくことをお勧めします。

屋外での被害で年末に発生が懸念されるのが「ひったくり」です。特に、高齢者や女性が被害に遭うケースが多く、明らかに狙いの対象になっています。

注意するポイントは、

○多額の現金を持ち歩かない。  
○カバン等を持って歩く場合は、建物側の手に持つ。

○自転車の前カゴは、カバールいたり、別の荷物を置いて容易に取れないようにする。

難しいことではありません。少し注意することで、被害を未然に防止することができます。

また、多額の現金が必要な場合は、車を利用するか金融機関に配達してもらうなど、最良の方法を考えることが大切です。

その他、車上狙いや置き引きの被害にも要注意。集金したカバンを車の座席に置いたままにしていたり、カバンからちよつと目を離れた隙に盗まれるケー

スが多くあります。

いずれにしても、全くの無防備になることが一番危険なのです。犯罪を誘発する要因を少しでもなくし、慎重に行動して頂きたいと思います。

## 編集後記

はやクリスマスや年賀状が話題となる季節となりました。

今年はエルニーニョ現象の影響が台風が多く発生し、我が国にも次々上陸しました。お盆の球技大会、盆おどり大会に続いて、地区最大のイベントである地区大運動会やグラウンドゴルフ大会も雨天中止の止むなきに至りました。特に運動会は、地区を挙げての行事でありながら、前回に続いての中止であり、精進の悪さを痛感している次第です。

年が改まると、一月には人権学習会、二月には四部対抗バレー

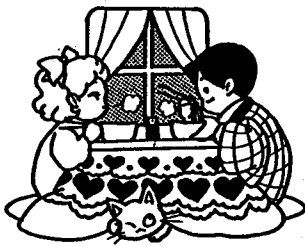
ボール大会、囲碁大会に続き、由良地区の活性化を主題に自治学級が予定されています。よろしくご指導ご協力下さるとともに、奮ってご参加下さるようお願い致します。

期待していましたが今年は、内外で不祥事が重なり、暗いニュースばかりが目立つ一年でした。

来年こそ将来に希望が見出せる年でありますよう切望して止みません。ご一家の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。お元気で良い年をお迎え下さい。

来る年に希望をつなぐ年の暮

(再掲)



蒲江から由良岳の遠望